

中国自然歩道中国自然歩道川床～一向平コース案内図

一向平から始まり川床で終わる歩道の区間は長さ約 9 キロメートルである。ハイカーたちは大山の最も風光明媚な地域を通り、歴史的な川床登山道の一部も横切る。

登山道に沿って約 1 キロメートル進むと、1977 年に建てられた大山滝吊橋にたどり着く。短い道を通って行くことができる橋の下には、鮎返りの滝と加勢蛇川がある。高さ 42 メートルの大山滝は二段滝で、1990 年には政府により日本の滝百選のひとつに指定された。

大休峠周辺で、ほぼブナが占める原生林を通り抜ける。大山の野生動物のほとんど、特に鳥類が、標高 800 メートルから 1,400 メートルの範囲に広がる特殊な生態系の中で生息している。

一部の歩道が石畳なのは、大山寺への四つある道のひとつであった旧川床登山道の名残である。石畳は 19 世紀中頃に作られたものであるが、川床登山道の方がずっと古く、平安時代（794 年 - 1185 年）に作られ、（倉吉の東にある）三徳山と大山寺をつないだ。当時、両方の寺が真言宗信徒によって維持されており、密教であることから正式な信徒以外には開かれていなかった。大山寺が天台宗に移ってから 16 世紀までには、修験者、地元の信者、山の家畜市場へ動物を運ぶ商人の往来が見られるようになった。この歩道の最終地点は小さな駐車場のある川床と阿弥陀川である。